

○単元の目標

知識及び技能	○マット運動の行い方を理解するとともに、自己の能力に合わせて、回転系や巧技系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技に取り組んだりすることができるようにする。
思考・判断力・表現力等	○自己の能力に合った技への動きづくりの課題の解決の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
学びに向かう力・人間性等	○マット運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

※共：男女共習

	1	2	3	4	5	6	7
ねらい	自分が目指す技を決め、自分の課題をつかむ。	自己の課題応じた場を選び、仲間とアドバイスし合いながら、自分が目指す基本的な技（易しい場での開脚前転・開脚後転・首跳ね起き・壁倒立・頭倒立）を安定してできるように動きづくりをする。		自己の課題応じた場を選び、仲間とアドバイスし合いながら、自分が目指す基本的な技や発展技（開脚前転・伸膝後転・頭はね起き・補助倒立）の動きづくりをする。		自分ができる技を組み合わせたり、仲間と動きを合わせたりして、発表会に向けて練習する。	6の1マット運動発表会を行う。自他の頑張りを認め合う。
導入	準備運動（ストレッチ・感覚づくりの運動の紹介を兼ねる）を行う。	共：心と体をほぐすために、グループやペアでコミュニケーションをとりながら、準備運動をする。（ペアストレッチ、感覚づくりの運動）					
展開	技のポイントを理解できるように、映像や掲示資料を使って説明する。	自分が目指す基本的な技のポイントを確認し、課題に応じた場で動きづくりをする。 共：自分の能力に合わせて技を選択できるように、3つの回転系の技と2つの巧技系の技を基本的な技として提示する。		自分が目指す基本的な技や発展技（開脚前転・伸膝後転・頭はね起き・補助倒立）のポイントを確認し、課題に応じた場で動きづくりをする。  共：基本的な技を習得できた児童が意欲的に運動することができるように、発展技を提示したり、より大きくや美しく等の視点を与えたりする。		グループで技の組み合わせ方を話合う。 共：一人ひとりの技能の高さを発表するだけでなく、仲間と運動する楽しさを味わうことができるように、仲間と動きをシンクロする構成を提示する。	6の1マット運動発表会を行う。
	自分の能力に合った技を決め、自己の課題を見付けることができるように、試しの運動を行う。	共：モデルとなる動きや自分の動きを映像で確認して、アドバイスし合うことができるように、練習の場にタブレット端末を設置する。		できるようになったことを仲間と認め合ったり、新たな課題を見付けたりすることができるように、グループでミニ発表会を行う。 共：一人ひとりの頑張りを認めたり、いろいろなアドバイスを受けたりすることができるように、技能の差や男女差、目指す技が異なるグループを形成する。		仲間とアドバイスし合い、発表会に向けて練習する。 ・自他の動きを映像で確認することができるように、タブレット端末で撮影させる。	
終末	今後の学習の見通しをもつことができるように、自分が目指す技を決める。	本時の学習を振り返って、次時の学習を見通しをもつ。 ・動きのコツを共有することができるように、「場」・「動きの感じ」・「仲間からのアドバイス」を視点に振り返りを交流する。					本単元の学習を振り返る。 共：自他の取組のよさを認め合い、次単元への意欲を高めることができるように、振り返りを全体で交流する。
	整理運動、振り返り（授業後アンケート）の記入						
評価場面	1	2	3	4	5	6	7
知識・技能		①	②	①	②		②
思・判・表				①	②		
主	①	④	②			③	③

評価規準
【知識・技能】 ①自分の選んだ技の行い方について、言うことができる。 ②自分が選んだ技のポイントを踏まえて、運動することができる。
【思考・判断・表現】 ①自分の課題に合わせて、場や提示された練習方法を選択することができる。 ②仲間の運動を観察し、課題や動きのコツを伝えることができる。
【主体的に学習に取り組む態度】 ①自分が選んだ回転系や巧技系の技に積極的に取り組もうとしている。 ②場の正しい使い方、試技をするときや観察のするときの約束を守り、仲間と助け合って運動しようとしている。 ③動きや気付いたことを伝え合うときに、仲間の考えや取組を認めようとしている。 ④場の安全に気を付けている。

一人ひとりが意欲的に運動し、仲間と学び合うための場や関わり合いの工夫

小学校第6学年 B 器械運動 ア マット運動

吉富町立吉富小学校

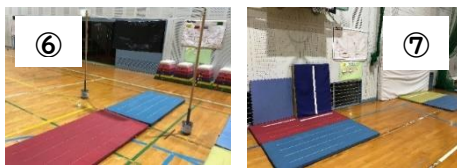
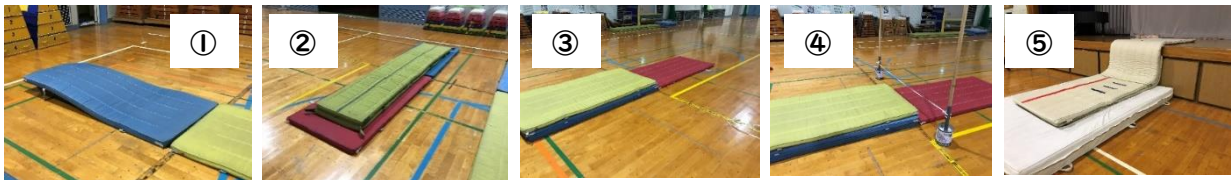
1 単元の目標

- マット運動の行い方を理解するとともに、自己の能力に合わせて、回転系や巧技系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技に取り組んだりすることができるようにする。【知識及び技能】
- 自己の能力に合った技への動きづくりの課題解決の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- マット運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

2 共生を基盤とした授業づくりにおける仕掛け

(1) 一人ひとりの課題解決に応じて、仲間と学び合うための仕掛け

回転系や巧技系の技の習得に向けて、課題にあった場の設定や、補助を付けた練習方法の提示を行った。



- ① ロイター板で傾斜をつけた場：勢いをつけやすく、着地しやすくなる。【開脚前転、開脚後転】
- ② 細マットの場：マットの段差を生かして、開脚立ちがしやすくなる場【開脚前転、開脚後転】
- ③ 段差マットの場：マットの段差を生かして、着地がしやすくなる。【首はね跳び、頭はね跳び】
- ④ ゴム紐を使った段差マット：マットの段差を生かして、着地しやすくとともに、ゴム紐を張ることで、大きく跳ねる動きづくりができる。【首はね跳び、頭はね跳び】
- ⑤ ステージの場：セーフティマットを設置しているため、思い切って跳ねの動きづくりができる。【首はね起き、頭跳ね起き】
- ⑥ ビニル袋を張った場：ビニル袋に足を当てようとすることで、膝を伸ばす動きをつくる。【開脚後転、伸膝後転】
- ⑦ セーフティマットの場：壁に高さの違うセーフティマットを立てることで、壁への恐怖心をスモールステップで克服する。【頭倒立、壁倒立】

(2) 仲間と学び合うための関わり合いの仕掛け

①本学習では、児童が主体的に学習に取り組むことができるように、回転系の基本的な技（開脚後転、易しい場での開脚前転、首跳ね起き）から1つ以上、また、巧技系の基本的な技（壁倒立、頭倒立）から1つ以上の技の習得を目指し、児童の技能に合った技を選択させた。さらに単元の後半では、回転系の発展技として開脚前転、伸膝後転、頭跳ね起きを、巧技系の発展技として、補助倒立、補助倒立前転を提示し、技能の高まりを生かした学習ができるようにした。

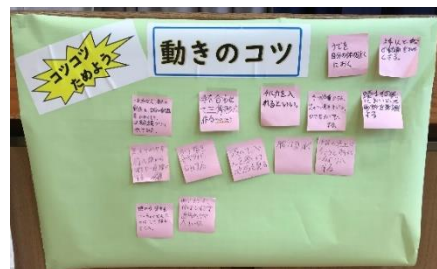


タブレットを利用した児童同士の学び合い①

- ② 児童が客観的に自分の動きを確かめたり、モデル映像と比較しながら課題を見付けたりすることができるように、各練習の場にタブレットを設置した。その際、自分のタブレットで撮影させることで、授業外でも自分の動きを観ることができるようにした。
- ③ 見つけた動きのコツをより多くの仲間と共有することができるように、学習の振り返りで記述されたコツや練習方法を付箋紙に書かせ、技のポイント掲示に貼りためていくことで、掲示物を通した学び合いが生まれるようにした。
- ④ 技能の差や男女差があっても、一人ひとりの頑張りを認め合ったりすることができるように、目指す技が異なるグループを形成し、展開の後半でミニ発表会を位置付けた。その際、アドバイスを伝える活動を設定することで、目指す技が違い、同じ練習の場で運動していない子ども同士の学び合いが生まれるようにした。



タブレットを利用した児童同士の学び合い②

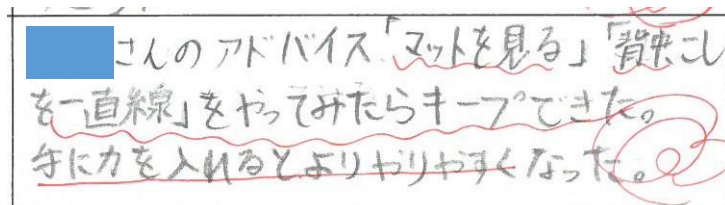
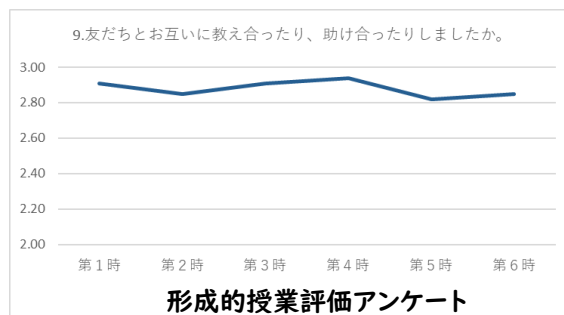


付箋を使った動きのコツの共有化

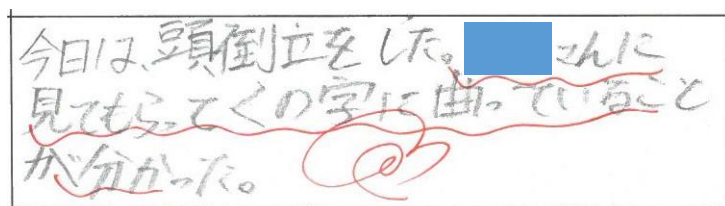
### 3 成果と課題

#### (1) 成果

- 「形成的授業評価アンケート」の「友だちとお互いに教え合ったり、助け合ったりしましたか」については、「はい」と答えた児童が高い水準で推移している。これは、同じ目指す技を共にする友だち同士が集まって学習することで、自分事として、仲間の動きを観察して課題を見付け合ったり、見つけた動きのコツを伝え合ったりできたためだと考える。
- 授業後の児童の振り返りには、「友達から受けたアドバイスを実際に試してみると出来た」という記述が見られた。普段関わりの少ない児童同士が、目指す技が同じであるためにグループを形成して練習したり、技能差がある児童同士が付箋を介してコツを共有したりすることが有効であったと考える。また、友達に撮影してもらうことで、自分では気付かない課題を見つけた児童の姿も見られた。これは、ICT機器を用いて、客観的に自己の姿を振り返ったり、仲間の動きと比べたりすることが有効だったためと考える。



アドバイスを受けた児童の振り返り



友達に撮影してもらった児童の振り返り

#### (2) 課題

- 児童一人一人が主体的に動きづくりに取り組むために技を複数設定したこと、課題解決につながる場を複数設定したことで、それぞれの場に集まる人数に偏りが生じ、児童同士の学び合いがあまり見られない場面があった。より協働的な学びを通して課題解決に取り組むことができるような工夫（ペア学習、グループ学習の進め方の工夫）や ICT の効果的な活用について今後工夫していきたい。